

世界記憶遺産登録をスタートに 次世代による継承へ



▲ユネスコ世界記憶遺産登録決定を喜ぶ



平和未来フォーラムでディスカッションに参加する日星高の生徒(右上) 修学旅行生を案内する若浦中の語り部(左上) 舞鶴引き揚げの日折り鶴アート(右下) 新舞鶴小で行われた引き揚げの体験授業(左下)



第7次舞鶴市総合計画に基づき、まちづくりの方向性や市の取り組み施策・事業をお伝えする「市政の今」。今回は、引き揚げの史実の次世代への継承から次世代による継承についてお伝えします。

◆まちぐるみの取り組みをスタートに

平成27年10月10日午前2時—— 引揚記念館が所蔵する引き揚げ関連資料が、人類が共有すべき世界的に重要な資料としてユネスコ世界記憶遺産に登録されました。市民の皆さんによる「舞鶴引揚記念館資料のユネスコ世界記憶遺産登録を応援する会」が立ち上がり、応援署名の自主的な活動など、まちぐるみでの活動の成果が実った結果です。その後、登録5年の節目を迎える現在に至るまで、NPO法人や市民団体が「白樺日誌」の書きおこし文の冊子をはじめ、当時の婦人会活動や受け入れた病院の看護師などの証言をまとめた冊子を作成しました。さらに引き揚げの劇の創作、引き揚げの記憶をテーマにしたシンポジウムの開催など自主的な活動を展開。市でも引揚記念館を中心に学芸員が助言を行うなど、皆さんと協働して取り組みを進めています。

協働とは、共同作業ではなく、1つの

目標に向かいそれぞれの立場で、また時には一体となって物事を進めることだと考えており、こういった市民の皆さんの活動の盛り上がりは「まちの力」として外部の有識者からも高い評価を受けています。

◆若い世代の語り継ぎ

世界記憶遺産登録への取り組みの効果は、学校との協働にも現れています。現在、市内の小学6年生は、ふるさと学習で引揚記念館に来館。見学だけでなく体験者の話や資料に触る体験などを通じて引き揚げの史実を学び、そこで感じたことを表現し、自分たちでシナリオを書いて劇にしたり、小学校の中に引揚記念館を作ったりと、他の学年や地域に紹介する学校独自の活動につながるケースも出てきています。さらにその様子を引揚記念館で広く紹介することで、若い世代の思いを広く発信することにつながっています。

「難しいと感じたことを自分の言葉に愛着や誇りの育成につながることを目指しています。」

「舞鶴引き揚げの日」の趣旨を広く共有するため「協働で目指す3年間で市民認知度100%」プロジェクトを立ち上げ、協力していただく市民や団体の皆さんと協働し、さまざまな取り組みを進めています。

団体や地域で広めるため出前講座の企画やのぼりを使った宣伝のほか、今年度は折り鶴アートの協賛で約1万羽の折り鶴を集めました。このような活動のおかげもあり、アンケートで初年度33割だった認知度は2年目で62割に上がりました。令和3年度認知度100割を目指して、そしてこれからも、引き揚げの史実や平和の願いを継承し、まちや社会のよりよい未来を目指します。引揚者がこの舞鶴で新たな人生の第一歩を踏み出したように、今後も市民の皆さんと共に歩みを進めることなく活動を進めていきます。

施策に関するご意見を

今号の施策に関するご意見やご感想をお寄せください。皆さんと一緒にまちづくりを進めていきます。▶詳しくは、引揚記念館 ☎68・0836)へ。

